

# 図画工作科学習指導案

平成 16 年 10 月 1・4・6 日(金・月・水)

渋川市立古巻小学校 6 学年 3 組(教室: 4 階多目的室)

指導者 大久保 純夫

題材名 「美術作品の『はてな?』を語り合おう」(鑑賞)

## 考察

### 1 児童の実態

本校の子供たちに育てたい鑑賞の資質・能力を明らかにするために、6 年生全員を対象にして質問紙による調査を行ったところ、次の結果が出た。

「自分たちの作品を友達同士で見合うことは好きですか」では、「好き」52%、「どちらでもない」39%、「好きではない」9%だった。友達の作品を鑑賞したり作品について自由に話したりすることを、半数程度の子供たちが好んでいるようである。

「あなたは何を見たときに、美しいな・いいな・すてきな、などと心に感じましたか」では、「風景」34%(映像も含む)や「映画」18%が多かった。「身の回りのもの」から挙げた子は 13%、「美術作品」から挙げた子は 6%だった。

これまでの鑑賞経験を振り返って記述した結果からは、子供たちが図画工作科の鑑賞で親しんできたのは、自分たちの作品を製作後に見合うことであり、授業で美術作品をじっくりと鑑賞した経験はないことが分かった。

数点の美術作品の図版を見て自由記述した結果からは、子供たちは直観的な印象でよさや美しさなどをとらえたり、自分の好みかどうかを感じたり見方に馴染んでいることが分かった。

これらの結果から、本校の子供たちに育てたい鑑賞の資質・能力は、直観的な見方に加えて、色や形など造形的な要素に着目して作品の特徴や表現の工夫をとらえたり作者の意図を想像したりする見方であるととらえる。

### 2 題材の考察

図画工作・美術科の鑑賞には、子供たちが自分たちの作品や芸術作品に親しむことによって造形的なよさや美しさなどに関する感性を養う意義がある。

このことに加えて、色や形などの特性を理解したり活用したりする資質・能力の育成を意義する意義が高まっていると考える。なぜなら、我々は映像メディアによる視覚情報を日々感受していることに加えて、色や形を用いた伝達や表現が手軽にできるようになってきたことは、画像や映像による表現が文字言語による表現と同様、日常生活上欠かせないものとなりつつあり、こうした変化は今後いっそう顕著になるものと考えているからである。

そこで、鑑賞において対象をじっくりと見る態度や、よさや美しさを生みだしている色や形など造形的な要素に着目して対象の特徴や表現の工夫をとらえたり、作品の世界や作者の意図などを想像したりできる資質・能力を育てる鑑賞題材の開発が求められていると考える。本題材は、このような考えに基づいて構想したものである。

また、本鑑賞題材は子供たちが美術作品の鑑賞に興味をもつきっかけとなるよう動機付けたり、美術館等で本物の美術作品のよさや美しさにふれることの事前学習としたりするのに適した題材と考える。

### 3 鑑賞の内容の系統性

|                   | 第 1 学年及び第 2 学年                     | 第 3 学年及び第 4 学年                    | 第 5 学年及び第 6 学年                     |
|-------------------|------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| B 鑑賞<br>鑑賞の内容     | (1) かいたり、つくったりしたのを見ることが興味をもつようにする。 | (2) 作品などのよさや面白さに関心をもって見るようにする。    | (3) 作品などを鑑賞し、それらのよさや美しさに親しむようにする。  |
| 内容に関して育成する資質や能力   | 自分たちの作品の形や色、表す方法などに関心をもつこと。        | 自分たちの作品のよさや面白さや材料の使い分けなどについて見ること。 | 自分たちの作品や表現のよさや美しさに興味をもつこと。         |
| 資質や能力を育成する材料、表現方法 | 身近な材料に親しむこと。                       | 親しむ材料の扱いや表現方法などについて見ること。          | 我が国の美術や諸外国の親しむべき作品のよさや美しさに興味をもつこと。 |

### 4 指導方針

これまでの指導において、鑑賞を子供たちの表現に付随する活動として扱うことが多かった。また、

子供たちは自分たちの作品を見合っただけで印象を語ったり記述したりすることが多かった。さらに美術作品を取り上げる鑑賞の機会がごくわずかであった。それらの鑑賞においては、よさや美しさなどを生みだしている造形的な要素に着目してじっくりと考えたり子供同士で意見交換したりする働きかけが乏しかった。こうしたことの改善をめざして鑑賞題材を開発して指導・支援にあたることとする。

高学年の鑑賞においては、直観的な印象だけでなく、作品に表された色や形など、造形的な要素に着目してじっくりと作品を見るようにしたい。そこで我が国や諸外国の著名な絵画作品を題材に取り上げ、以下の方法で鑑賞するようにする。まず、絵画作品を多数印刷したカードを4、5人のグループごとに用意し、「似たものペア探し」と題した、共通点を多く持つ作品のペアを見つける活動を行う。次に、一人ひとりが心にとまった一組の作品を選択し、それらをじっくりと見て、表現された事物の共通点や相違点、自分なりの印象や解釈などをワークシートに記述する。その後、作品に表現された事物や解釈などを問いかける問題文を個別に作る。

個別に問題文を作った後、2種類の語り合い活動を行う。まず、はじめのグループ内で、一人ひとりが作った問題文が作品の内容から根拠を示して答えを導き出せる問題文かどうか検討するために語り合う。そして、必要に応じて問題文を修正した後、問題発表会を開いて新たなグループ内で問題の答えを求め合せて語り合う。これら2度の語り合いを手だてとして、作品に表された事物や色や形など、造形的な要素に着目する見方を理解・確認したり見方を活用したりするようにする。また、友達同士で共感し合ったり、自分とは異なる感じ方や考えがあることに気付いたりするようにする。そうすることで一人ひとりの子供が自分なりに作品の見方を深めるようにしたい。

指導に際しては、画家の人物像や美術史的な知識を教えることはとくに行わない。それは、美術作品を、色や形など、造形的な要素に着目して見るための題材として扱うからである。作品を見て一人ひとりの子供が思ったことを大切に、能動的な鑑賞となるようにしたい。

## 目標

色や形など造形的な要素に着目する見方で、作品の特徴やよさなどについての考えを深める。

## 評価規準

### 1 内容のまとめりごとの評価規準

| 関心・意欲・態度                         | 鑑賞の能力  |
|----------------------------------|--|
| ・美術作品のよさや美しさ、表現の意図などに関心をもって鑑賞する。 | ・表された事物や色・形など、造形的な要素に要素に着目して、作品のよさや美しさ、表現の意図などについての見方を深める。 |

### 2 題材の評価規準

| おおむね満足できる状況   | 十分満足できる状況   |
|---|---|
| 関心・意欲・態度  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術作品の図版を見比べて、共通性の強いペアを見つけようとしている。</li> <li>・作品をじっくりと見て、条件に合った問題文を作ろうとしている。</li> <li>・友達の問題をよく聞いて考えたり自分の問題にたいする考えを友達に求めたりしている。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術作品の図版をじっくりと見比べて、共通性の強いペアを見つけようとしている。</li> <li>・作品をじっくりと見て、あれこれと試しながらより良い問題文を作ろうとしている。</li> <li>・友達の問題をよく聞いて考え、すすんで考えを述べたり自分の問題に対する考えをすすんで求めたりしている。</li> </ul>         |
| 鑑賞の能力   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に表された事物や色・形などの共通点の多いペアを見つけることができる。</li> <li>・作品をじっくりと見て、造形的な要素に着目して答えを見つけることのできる問題文作りができる。</li> <li>・美術作品のよさや美しさなどについて、自分なりの考えをもつことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に表された事物や色・形などの共通点の多いペアをいろいろ見つけることができる。</li> <li>・作品をじっくりと見て、造形的な要素に着目して答えを見つけることのできるいろいろな問題文作りができる。</li> <li>・美術作品のよさや美しさ、表現の効果や意図などについて、自分なりの考えをもつことができる。</li> </ul> |

## 本時の学習

### 1 第1時 10月1日(金) 5時間目

#### (1) ねらい

美術作品のカードを使った「似たものペア探し」の活動をとおして、表された事物や色・形など、造形的な要素に着目する見方にふれる。

#### (2) 準備

- ・美術作品のカード集 40枚組(A組・B組各20枚)10セット
- ・小グループ名簿 ・「学習ガイド」 ・ワークシート1(感想・自己評価用紙)

#### (3) 展開

| 過程  | 時間  | 形態 | ねらい<br>・主な学習活動   | 支援及び指導上の留意点   | 評価規準（評価方法）                                   |  |
|---|-----|----|--|---|--|--|
|   |     |    |  |   | 関心・意欲・態度                                     | 鑑賞の能力  |
| 見<br>方<br>に<br>ふ<br>れ<br>る  | 1   | 全  | <p>美術作品のカードを使った「似たものペア探し」の活動をとおして、表された事物や色・形など、造形的な要素に着目する見方にふれる。</p> <p>・本単元の学習の目標と本時のめあてを知る。</p> <p>・作品の共通点の見つけ方を理解する。</p> | <p>・予め4～5人のグループを作り、作品カードを各グループ20枚（10組）ずつ配っておく。</p> <p>・床上にカードを並べることができるよう、カーベット貼りの特別教室を使用する。</p> <p>・本題材の学習の意義と主な活動内容を「学習のてびき」に記載しておくとともに、ゲームを始める前に説明をする。</p> <p>・本時まで、4～5人ずつのグループを作り、名簿を作成しておく。（班長と副班長を決定しておく。）</p> <p>・「この学習の目標は、作品を見る力を深めることです。」「この時間の学習のめあては、共通点の多い作品を組ませてペアをつくることをしながら、美術作品をじっくりと見ることです。」「という内容を伝える。</p> <p>・作品の共通点の見つけ方を例示しながら「似たものペア探し」の方法を説明する。（例示用の作品をスクリーンに映写しながら説明する。）</p> |  |  |
|   | 25分 | 全  | <p>・「似たものペア探し」をする。</p>   | <p>・勝敗にこだわらず、楽しみながらカードをじっくりと見ることを心掛けさせるようにする。</p> <p>・進め方はゲームをすすめながら必要に応じて説明する。</p> <p>・友達の出したりめくったりした作品カードをじっくりと見て、手持ちの作品カードとペアとなるカードはないか探したり、どちらの作品カードが共通点が多いか探したりするように呼びかける。</p>   | <p>・いろいろな美術作品のカードを見て、共通点を見つけようとしている。（観察）</p> | <p>・複数の作品に表された事物や色・形などの共通点を見つけることができる。（観察）</p> |
|   | 10分 | 全  | <p>・共通点をもつ作品同士のペアを発表し、造形に関する用語を知る。</p>   | <p>・子供たちが見つけた作品のペアを黒板に掲示する。その際、どんな観点で2点の作品を結びつけたのか、子供が説明するようにする。</p> <p>・子供たちの見つけた共通点が、造形に関する用語（「色調」「遠近感」「構図」「輪かく」等）で表すことができることを伝え、ペアの隣に用語を書いた紙を掲示する。さらに、「学習ガイド」にそれらの用語を書きとめるように伝える。そのようにすることで、造形に関する用語の意味を、感覚的に理解することができるようにする。</p> <p>・子供たちの取り組みぶりを賞賛する。</p>  |  |  |
|   | 5分  | 個  | <p>・作品のペアを1組選ぶ。</p> <p>・本時のふりかえりを記入する。</p>   | <p>・「似たものペア探し」で見つけた20組のペアの中から、1組のペア（最も気に入ったペアや、気になるペアなど）を、自分の意思で選ぶように伝える。</p> <p>・なかなか決まらない子供には次回までに見つけられよいかを伝える。</p> <p>・ワークシート1に記入するように伝える。</p>   |  |  |
| <p>「似たものペア探し」の方法</p> <p>学級を2つのグループに分けて行う</p> <p>学級をA・Bの2グループに分け、全40枚の美術作品カードを各自に1枚ずつ配る。（A・B各グループにそれぞれA組B組のカードが20枚ずつ配られる。）</p> <p>A・Bの2グループに分かれて、自分のカードの作品と共通点が多く、ペアになると思う作品カードを持っている友達を見つける。（相手が見つかったら2人でその場に座るようにする。）時間の余裕があれば、A組B組のカードを各グループ交換して、同様の方法で2回目を行う。</p> <p>小グループで方法を変えて行う</p> <p>4～5人のグループで円を作り、20枚のカードを、トランプの要領で各自3枚ずつ配る。残ったカードは束にして、裏面を上に向けて、子供たちの中央に置く。</p> <p>各自が、手持ちのカードから共通点のある2枚のカードのペアを見つけて並べる。</p> <p>手持ちのカード同士の共通点が見つからない時は、1番手の子供が、中央の束から1枚めくり、手持ちのカードとの共通点を見つける。共通点が見つければ、そのカードをめくったカードと並べて置く。ただし、他の子供が、自分の持っているカードの方が、めくった子の手持ちカードよりも共通点が多いと判断したら、メンバー全員でカードを見比べ、どちらが共通点が多いか判断する。</p> <p>順番に1枚ずつカードをめくっていき、ペアとなるカードを持っている子供がめくったカードに並べて置く。同様の手順を繰り返し、手持ちのカードをすべてペアにして並べる。</p> |     |    |  |   |  |  |
| <p>ワークシート1の設問</p> <p>「似たものペア探し」は楽しかったですか</p>  |     |    |  |   |  |  |

|  |                  |  |   |  |
|--|------------------|--|---|--|
|  |                  |  | <p>・楽しかった ・どちらともいえない ・楽しくなかった（理由も記述）<br/>         あなたが見つけたペアは、何番と何番の作品ですか。<br/>         （ ）番（作者 ）と（ ）番（作者 ）の作品<br/>         作品の共通点を見つけることができましたか。（選択式）<br/>         ・2組以上できた ・1組できた ・できなかった<br/>         「似たものペア探し」をして思ったことを自由に書いてください。</p> |  |
|  | ・次時の活動内容を<br>知る。 | ・次の時間に、選んだ作品について友達に問かける問<br>題文を作ることを伝える。 |   |  |

2 第2・3時 10月4日（月）3・4時間目

(1) ねらい  
一人ひとりが選んだ作品についての印象や疑問をもとに問題文を作り、それらの検討をとおして、色や形など、造形的な要素に着目する見方を理解する。

- (2) 準備  
(前時に加えて)  
 ・子供たちが選んだ作品のA4判図版  
 ・ワークシート2（作品鑑賞用） ・ワークシート3（問題文記入用）  
 ・ワークシート4（自己評価・相互評・感想用）  
 ・ヒントカード ・色紙 ・美術作品の縮小図版 ・「美術作品名一覧表」
- (3) 展開

| 過程                              | 時間  | 形態     | ねらい<br>・主な学習活動  | 支援及び指導上の留意点  | 評価規準（評価方法）   |       |
|---------------------------------|-----|--------|---|--|--------------|-------|
|                                 |     |        |   |  | 関心・意欲・<br>態度 | 鑑賞の能力 |
| 見<br>方<br>を<br>理<br>解<br>す<br>る | 2   | 全<br>個 | <p>一人ひとりが選んだ作品についての印象や疑問をもとに問題文作りをする。</p> <p>・本日のめあてを知る。</p> <p>・作品の印象や疑問を、ワークシートに記入する。</p> | <p>・子供たちが選んだ作品の図版をA4判でカラー印刷しておく。さらに、子供たちが選んだ作品カードを、一人ひとりに配布しておく。</p> <p>・各グループごとに集まって座る。</p> <p>・「作品名一覧表」を見て、自分が選択したペアの作品の題名と作者を知るようにする。</p> <p>・「今日は、まず、作品をじっくり見て考え、友達に問かける問題文を作ります。そして次の時間には、問題文をグループで検討します。作品をじっくりと見ながら、どんな問題文にするか考えましょう。」という内容を伝える。</p> <p>・作品をよく見て、教師の以下の発問に沿って書く。</p> <p>・「学習ガイド」に記入した用語を使うことを伝える。</p> |              |       |
|                                 | 15分 |        |   |  |              |       |
|                                 | 5分  | 全      | <p>・作品を見て気付いたことや印象などを述べる。</p>   | <p>・数人を指名（4人程度）し、発言を共感的に聴く。</p> <p>・子供の発言を介して、作品をじっくりと見ると、いろいろなことに気付いたりいろいろな考えが浮かんできたりすることを全員に気付かせる。</p> <p>・「作品をじっくりと見ると、いろいろなことに気付きますね。」</p> <p>「作品から受ける印象や解釈は人それぞれです。作品を見てあなたが感じたことや考えたことを、友達はどうのように感じたり考えたりするか、問題を作ったはずねてみましょう。」と呼</p>   |              |       |

・作品の内容について友達に問いかける問題文を作る。

びかけて、次の活動につなげる。  
 ・「あなたの選んだ作品について感じたことや考えたことを、友達に質問するつもりで問いかける問題文を作りましょう。」と呼びかける。  
 ・説明用作品を示して問題文を例示する。  
 ・二点を比較して問いかける問題文を作るようにする。  
 ・「指さして答えられる問題」(事物を問いかける問題)と、「考えて答える問題」(解釈を問いかける問題)の二種類を作ることを伝える。どちらの問題なのか意識するようにする。  
 ・ワークシート3に問題文を記入する。

ワークシート3 (部分)

| 指さして答えられる問題 |                          | 考えて答える問題 |                          |
|-------------|--------------------------|----------|--------------------------|
| 問題文         | 友達の言葉                    | 問題文      | 友達の言葉                    |
|             | (問題文についての友達の感想や意見を記入する欄) |          | (問題文についての友達の感想や意見を記入する欄) |

・問題を2つ以上作るように伝える。余裕のある子供には、さらに多くの問題文を考えるように伝える。

・色紙や縮小図版を使って、操作したり書き込んだりして答える問題を作ってもよいことを知らせる。

問題文はペアである二点の作品についての問題文、あるいはどちらか一方についての問題文のいずれもよい。

問題例 (二点の作品を比べる) 指さして答えられる問題

(ルソーの「眠るジブシー女」とワイエスの「遠雷」のペアの場合)  
 ・「二つの作品に共通していることを、3つ挙げてください。」  
 (答え: 人物が寝ている。女である。そばに動物がいる。)  
 ・「二つの作品の違いを、5つ挙げてください。」  
 (答え: 女性の服装・ライオンと犬・草原と砂漠・空の色 楽器の有無 など)

問題例 (一点の作品についての) 考えて答える問題

(村上華岳の「日高河清姫図」の場合)  
 ・「この女の人は、どんな人で何をしようとしているのでしょうか。」(服装等に注目する)  
 (ゴッホの「ヴィンセントの部屋」を提示して)  
 ・「この部屋に住んでいる人は、どんな暮らしをしている人でしょうか。」(壁の衣服等に注目する)

・作品の内容から根拠を示せる問題文であることが条件であることを全員が理解するように説明する。

・ワークシートに書いた作品の印象や疑問に基づいて問題文を考えるようにする。  
 ・集中して記入している子供の態度を賞賛し、子供たちの記述内容を興味深く受け止める。  
 ・問題文が作れない子供には、問題文のひな型を示したヒントカードを渡す。ひな型に言葉を入れることでその子供なりの問題文が作れるようにする。

・いろいろな作品を見て問題文作りをしようとしている。  
 (観察)

ヒントカード(問題文のひな型を示したもの)の文例

「この作品に描かれた( )は、(何が・いくつ・どのように)( )いますか。  
 この作品の( )と、この作品の( )には、どんな(共通点・違い)が( )ですか。  
 「この作品の( )(は・から・には)(何を・どのようなことが・どのように)( )ですか。」  
 「この2つの作品のどちらかに( )としたら、あなたは(どちらに・何を)( )ですか。それはなぜですか。」

|                                 |     |   |  |   |  |
|---------------------------------|-----|---|--|---|--|
| 見<br>方<br>を<br>理<br>解<br>す<br>る | 全   | <p>相互に問題文を<br/>検討すること<br/>をとおして、色<br/>や形など、造<br/>形的な要素に<br/>着目する見方<br/>を理解する。</p> <p>・本時のめあて<br/>を知る。<br/>・語り合いの<br/>方法を知る。</p> | <p>・全員が問題を最低2問できたか確認しておく。できていない場合は、個別に助言を与えて、問題を作れるようにする。</p> <p>・作った問題は箇条書きし、問題文の冒頭には 印をつけておくように伝える。(根拠を示して答えられる問題であると、友達から意見をもらったら、 に塗りつぶすため。)</p> <p>・「この時間は、一人ひとりが考えた問題文が、これでいいかどうか、グループで検討します。友達が問題に答えるときに、作品に描かれている内容から理由を示して、答えたり考えたりできる問題かどうか、問題文を読み直してみましょう。」という内容を伝える。</p>   |   |  |
|                                 | 30分 | <p>グ</p> <p>・作った問題をグループで検討する。</p> <p><u>研究の見直し1</u></p>   | <p>・造形に関する用語を使うことを心掛けるように伝える。</p> <p>・班長と副班長が司会と記録を行う。</p> <p>・教師は全体の進行をする。</p> <p>・「学習の手引き」に示された進め方を見ながら進行するようにする。</p> <p>・司会者の進行のもと、グループのメンバーが一人ずつ順番に問題文を読み上げる。司会者は、その問題文が根拠を示して答えられるかどうか、メンバーに意見をもとめる。司会者自身の意見は、最後に述べるようにする。</p> <p>・問題文の検討は一人6分とする。時間が来たら次のメンバーの問題文検討に移る。</p> <p>・時間内に全員の問題文を検討するようにすすんで発言するよう心掛けるように伝える。</p> <p>・友達の問題に対して感想を述べるようにし、問題を作った子供はもらった感想を簡潔にワークシート3に記述しておくようにする。</p> <p>・根拠を示して答えられるという、友達の意見をもらった問題文は、問題文の冒頭に記入 を、鉛筆で に塗りつぶすようにする。</p> | <p>・友達の作った問題に関心をもって聞きながら問題文を検討している。(観察)</p> |  |
|                                 | 10分 | <p>グ</p> <p>・グループ内で分かれて問題を吟味したり修正したりする。</p>   | <p>・時間内に検討が終わらなかつたり、問題の修正が必要な子供に対して、グループ内で2、3人に分かれて、協力して続きの検討をしたり助言したりするようにする。</p> <p>・教師も個別に対応し、必要な助言をする。</p> <p>・題意が正確に伝わるよう、問題文の表現の吟味をする。</p> <p>・吟味・修正を経て、根拠を示して答えられると判断した問題文は、冒頭の を、 に塗りつぶすようにする。そうすることで支援を要する子供が一目で分かるようにする。</p> <p>・友達の問題文を聞いたら、必ず感想や意見を述べるように伝える。</p>  |   | <p>・作品をじっくりと見て、造形的な要素に着目して答えを見つけていることのできる問題文作りができる。(観察・記述内容)</p> |
|                                 | 5分  | <p>個</p> <p>・本時の活動を自己評価、相互評価する。</p>   | <p>・本日の活動を振り返って、ワークシート4に自己評価と感想を用紙に記入する。</p> <p>ワークシート4 の設問</p> <p>問題文を考えることは、楽しかったですか。</p> <p>・楽しかった      ・どちらともいえない      ・楽しくなかつた</p> <p>ヒントカードは役立ちましたか。</p> <p>・役だった      ・どちらともいえない      ・役立たなかつた</p> <p>友達の意見はあなたの問題づくりに役立ちましたか。</p> <p>・とても役立った・少し役立った・あまり役立たなかつた      ・役立たなかつた</p> <p>だれの、どんな意見が心に残りましたか。<br/>(だれの ) (どんな意見が )</p> <p>友達がじっくりと考えてくれそうな問題文を作ることができましたか。</p> <p>・できた      ・どちらともいえない      ・できなかつた</p> <p>今日の学習で思ったことを自由に書いてください。(自由記述)</p>          |   |  |

3 第4・5時 10月6日(水) 3・4時間目

(1) ねらい  
一人ひとりが選んだ作品についての問題を出し合い、答えを追求することをおして作品の見方を深める。

(2) 準備

(前時に加えて)・ワークシート5(発表用メモ)

・ワークシート6(感想・自己評価用紙)

・群馬県立近代美術館開館30周年記念展「西洋の誘惑」チラシとポスター

(3) 展開

| 過程     | 時間  | 形態 | ねらい<br>・主な学習活動  | 支援及び指導上の留意点  | 評価規準(評価方法)   |       |
|--------|-----|----|---|--|--|-------|
|        |     |    |   |  | 関心・意欲・態度   | 鑑賞の能力 |
| 見方を深める | 10分 | 全  | <p>一人ひとりが選んだ作品についての問題を出し合い、答えを追求しながら、作品の見方を深める。</p> <p>・本日のめあてを知る。</p> <p>・「発表メモ」に、作品についての自分なりの評価を記入する。</p> | <p>・前回と同じグループ(4、5人)で集まって座る。</p> <p>・各メンバーで問題を出す順番を決めておく。</p> <p>・自分の問題文に關係する作品カードを手元に置く。</p> <p>・今日は、問題を出し合って、答えを見つけたり考えたりします。一人12分の問題発表会をします。問題を出したり答えを考えたりしながら、友達のいろいろな考えを知ったり、新しい発見をしたりして、作品の見方を深めて行きましょう」という内容を伝える。</p> <p>・問題についての答えや意見を聞いたあと、最後の2分で、あなたが選んだ作品についての感想を発表します。」</p> <p>・「発表メモ」の項目に沿って書くようにする。</p> <p>ワークシート5 「発表メモ」の項目</p> <p>この作品のよい所は～ _____ だと思います。</p> <p>この作品を見ていて思うことは～ _____ です。</p> <p>この作品の形の取り方の特徴は～ _____ だと思います。</p> <p>この作品の色や雰囲気の特徴は～ _____ だと思います。</p> <p>私にとって、この作品は～ _____ です。</p>   |  |       |
|        | 5分  | グ  | <p>・問題発表会の進め方を理解する。</p>   | <p>・人数に偏りが出ないように、周囲を見て場所を決めるようによびかける。</p> <p>・教師は全体の進行をする。時間を計って一斉に始める</p> <p>・「学習ガイド」に示した「はてな？」問題発表会の進め方を参考にして問題を出せばよいことを知らせる。</p> <p>「はてな？」問題発表会 の進め方</p> <p>私は( 作者名と題名 )と( 作者名と題名 )を比べる問題を出します。</p> <p>(はじめに指さして答えられる問題を出します)</p> <p>「第 問。( _____ )」</p> <p>(友達の答えを聞く)</p> <p>(答えとその理由を発表する)</p> <p>「答えは( _____ )です。その理由は、( _____ )。」</p> <p>(つぎに)考えて答える問題を出します)</p> <p>「第 問。( _____ )」</p> <p>(友達の意見を聞く)「さて、答えは何でしょうか？」</p> <p>(答えとその理由を発表する)</p> <p>「答えは( _____ )だと思います。その理由は、( _____ )。」</p> <p>(最後に、「私が選んだ作品について思うこと」を発表します。「発表メモ」に書いたことを見てもいいですよ。)</p> |  |       |
|        | 55分 | 全  | <p>・問題発表会で、問題を出し合いながら、答えを追求する。</p> <p><u>研究の見直し2</u></p>  | <p>・これから友達同士で問題を出し合います。問題に答える人は、他のグループを自由に移動してください。各グループから までの順で問題を出します。自分の番のときは、自分のグループの場所に来て問題を出してください。」という内容を伝える。</p> <p>・出したい問題を2、3問に優先順位をつけておくように伝える。</p> <p>・全体の進行は教師が行う。</p> <p>・問題を出す子供は、自分のグループの位置に集まる。</p> <p>・問題に答える子供は、順番に他のグループに移動するようにすることで、人数の偏りが起こらないようにする。</p> <p>例えば、1班は、2班～3班～4班～5班の順に移動して問題に答える。</p> <p>・時間が来たら移動時間1分をはさんで、次の人と交代</p>  | <p>・自分の考えを話したり、いろいろな友達の意見を聞いたりして、問題の答えを追求しようとしてい</p> |       |

|   |     |            |   |        |   |
|---|-----|------------|---|--------|---|
| 見方を深める  | 15分 | 個          | <p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は全体の流れに配慮し、一回の発表にける時間のめやすを11分とする。</li> <li>内訳： 移動・準備（1分）<br/>問題を出しての答えを追求する（8分）<br/>（合図をする）<br/>作品についての自分の解釈を語る（2分）</li> <li>・自分たちのグループの位置に戻る。</li> <li>・語り合いの最中の態度を賞賛する。</li> </ul> <p>・問題を出し合ってみて、どうでしたか。自分の問題に対する友達の答えの内容や反応はどうだったか、友達の問題についての感想などを書いて、学習を振り返りましょう。」という内容を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの5時間を振り返って感想を書く。美術作品や作品の見方についてどのような考えをもったか記録できるように、ワークシートに次の設問をしておく。</li> </ul>  | る。（観察） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術作品のよさや美しさなどについて、考自分なりのことえをもつことができる。（観察・記述内容）</li> </ul> |
| <p>ワークシート6 の設問</p> <p>「作品を選んで問題を作ることは」(・楽しかった ・どちらとも言えない ・楽しくなかった)</p> <p>「友達に問題を出すことは」(・楽しかった ・どちらとも言えない ・楽しくなかった)</p> <p>「友達の出した問題に答えることは」(・楽しかった ・どちらとも言えない ・楽しくなかった)</p> <p>すすんで問題の答えを考えたり意見を言ったりできましたか。<br/>(・よくできた ・まあまあできた ・あまりできなかった ・できなかった)</p> <p>問題について、友達の言ったことで、どんなことが心に残りましたか。(自由記述)</p> <p>今回の学習をして、よかったと思うことは、どんなことですか。」</p> <p>似たものペア探しでは<br/>問題作りでは<br/>問題の検討会では<br/>問題の発表会では</p> <p>今回の学習で、あなたの作品の見方や作品についての考えは、以前にくらべて深まりましたか。<br/>・見方や考えが深まった(どのように変わりましたか) )<br/>・見方や考えは深まらなかった。(どのように思っていますか) )</p> |     |            |   |        |   |
| 5分  | 全   | 友達や教師の話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数人の子供に感想を尋ね、発言に共感する。</li> <li>・本題材をとおした子供たちの学習への取り組みの様子を賞賛する。</li> <li>・以下のような内容を伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今回の学習では、美術作品をじっくりと見て考える経験をしましたね。今回の経験を生かして、これからも、ものの形や色などをじっくりと見ることを心掛けましょう。そして、よさや美しさがどのように表されているのか、考えるようにしましょう。作品をかいたりつくったりした人が、どんなことを考えて、どんなことを表そうとして、どんな工夫をしたのかについても、考えてみましょう。</p> <p>ふだんからものをじっくりと見ることを心掛けていると、以前は、なんとなく見ていたものでも、そこにいろいろなよさや美しさがあることが見えてきます。そして、それらのものに込められている、いろいろな考えも分かってきます。</p> <p>これからの世の中は、インターネットやテレビがますます発達してきます。目に見える情報を暮らしに役立てて、外国の人など世界中の人々と心を通わせることが、ますます大切な世の中になってきています。みなさんが大人になる頃、世の中は、色や形を使った情報をいろいろな人から受け取ったり、色や形を言葉と一緒に使って自分の考えを伝えたり、自分の気持ちを表したりすることが、だれでも、いつでも、簡単にできるようになります。そういう世の中で、ものをじっくりと見ることを心掛けること、つまりふだんからいろいろなものを鑑賞することは、目に見える情報を正しく理解したり色や形を使いこなして生きていくのに大切なことです。これからのいろいろなものを鑑賞することを心掛けて、色や形などのよさに気付く人になってください。</p> <p>世の中には、絵を描いたりつくったりすることが苦手でも、鑑賞することは好きという人は大勢います。なぜなら、いろいろな美術作品や文化財を鑑賞することは、楽しくて、心を豊かにすることだからです。そのために、世界中にたくさんの美術館や博物館が作られて、大勢の観客が鑑賞に訪れています。機会があったら、おうちの人と一緒に、美術館や博物館へ行って本物を鑑賞してください。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県立近代美術館開館30周年記念展「西洋の誘惑」を紹介する。(チラシ・ポスター)</li> <li>・これまでに使用したワークシートを「学習の手引き」に貼り付けて提出するように伝える。(教師は、「学習の手引き」にコメントを記入して後日返却する。)</li> </ul> |        |   |



## 資料編 2

### 1 「似たものペア探し」から問題文の作成まで（第1時～第3時の概要）

第1時「見方にふれる」段階で行った「似たものペア探し」は、20点の美術作品の図版カード（写真参照）を4～5人のグループ内で見比べながら、色や形などについて最も強い作品を2点ずつ選んでペアにする活動である。図版カードは、色や形などに共通性が強い美術作品を教師が選定して授業用に印刷したものである。子供たちは興味深そうに図版カードを見比べて、グループの友達同士で話し合いながら10組のペアを作った。そして、一人一人最も心にとまったペアを一組ずつ選んだ。

「似たものペア探し」で子供達が作ったペアは、ほぼ教師の予想どおりだった。だが、予想外のペアを作った子供もいた。そのような子供には、教師が気付かなかった共通点を見つけてあげることができたことを賞賛した。なお、共通性の弱い作品同士をペアにした子供にたいしては、共通性の強い作品がほかにあることに気付くよう助言した。

第2時の前半に「似たものペア探し」で見つけた作品の共通点を5人の子供が発表した。教師は子供の説明を聞きながら、いろいろな共通性を見つけたことを賞賛しつつ、それらが「題材（テーマ・主題）」、「事物（描かれているもの）」、「描き方（表現方法や技法）」、「構図」、「色調（色あい）」などの用語で表すことができることを、作品の図版を黒板に掲示して全員に説明した。そして、これらの観点を意識して見比べると作品の共通点や特徴が分かることを説明した。子供たちは作品の図版を注視しながら聞いており、観点を感覚的に理解できた様子であった。

第2時の後半から第3時の前半にかけて問題文作りを行った。まず、一人ひとりの子供が選んだ作品を個別にいろいろな観点からじっくりと見て、作品の特徴や作品から受けた印象などを、「事物」「構図」「描き方」「色調」などの観点をに沿ってワークシートに記述した。子供たちは集中して取り組んでいた。その後、ワークシートに書き込んだことを生かして、友達に問いかける問題文を考えた。

色や形に着目しているいろいろな問題文が作れるようにするために、『指さして答えられる問題』（事物を問いかける問題）と『考えて答える問題』（解釈を問いかける問題）の違いについて説明し、二種類の問題を作るように呼びかけた。自力で二種類の問題を作ることが困難な子供に対しては『問題作りヒントカード』を示す支援を行った。これは、いろいろな問題文のひな型であり、空欄に子供が考えた言葉をあてはめることで、二種類の問題文が複数ずつ作れるようになっているワークシートである。問題文を自力で作るのが困難な子供は数名であったが、できるだけ多くの問題を作りたいという意欲をもった子供が大勢いたため、子供たちの求めに応じて大多数の子供に『問題作りヒントカード』を渡した。

このようにして問題文を作った後、第3時の後半に、本研究の「見通し1」にあたる、問題文をグループ内で検討し合う語り合いを行った。

美術作品の図版カード

第3時 問題文作り

第5時「問題発表会」



### 2 図版カードについて

図版カードに使用した絵画作品の選定にあたっては、題材や構図などに共通性のある作品同士を2点ずつ配した。図版カードに取り上げた絵画作品の画像は、画集をスキャナーでコピーしたり、下記のウェブサイトからダウンロードしたりしたものである。

（[http://www.artchive.com/ftp\\_site.htm](http://www.artchive.com/ftp_site.htm) <http://search.dnparchives.com/index.cfm> <http://www.wga.hu/index.html> <http://www.tnm.go.jp/jp/gallery/index.html> 等）

「似たものペア探し」で取り上げる作品の選定にあたっては、子供たちがペアにすることを予め教師が予想し、描かれた事物や色調、構図などに共通性や類似性の強い作品を選んでおく。例えば、2番と7番の作品はいずれも「山」が主題である。22番と27番にはいずれも「傘を持った女性」が描かれている。13番と18番はいずれも人物の顔が画面いっぱい描かれており、全体の色調も共通性があるといった具合である。

「似たものペア探し」の結果、教師の予想外のペアが作られることもあるが、この活動の

目的は、じっくりと見ることや作品のいろいろな共通性に気付くことである。したがって教師が気付かなかった子供の気づきの価値を認め、大いにほめてやりたいものである。

図版カードはA・Bの2セット作成した。これは、子供達に多くの作品を目にして欲しいと考えたからである。「似たものペア探し」で各グループはA・Bいずれかのセットを使用した。子供達は、ペア探しの結果を学級全員で見合った際にすべての図版を目にした。

なお、これらの図版を授業者が授業において使用することは法律上認められているので問題ないが、図版カードの取り扱いについては、著作権に十分留意する必要がある。例えば児童に配布したり譲渡したりすることは法律で禁止されている。したがって授業で使用した図版はすべて回収した。

### 3 図版カードに取り上げた作品一覧

#### Aセット

- 1 観楓図屏風(部分) 狩野秀頼(1760年~1849年)(日本)
- 2 富岳三十六景 山下白雨 葛飾北斎(日本)江戸時代
- 3 叫び エドワルド・ムンク(1863年~1944年)(ノルウェー)
- 4 接吻 マリー・ローランサン(1883年~1956年)(フランス)
- 5 パベルの塔 ピーテル・ブリューゲル父(1525年~1569年)(現オランダ)
- 6 農民の踊り ピーテル・ブリューゲル父(1525年~1569年)(現オランダ)
- 7 セント・ヴィクトリア山 ポール・セザンヌ(1839年~1906年)(フランス)
- 8 叫びのこだま ダヴィッド・アルファロ・シケイロス(1896年~1974年)(メキシコ)
- 9 誕生日 マルク・シャガール(1887年~1985年)(ロシア)
- 10 パベルの塔(小) ピーテル・ブリューゲル父(1525~1569)(現オランダ)
- 11 秋冬山水図 雪舟(1420年~1506年)(日本)
- 12 眠るジブシー女 アンリ・ルソー(1844年~1910年)(フランス)
- 13 セネシオ パウル・クレー(1879年-1940年)(スイス)
- 14 ジョゼット モイーズ・キスリング(1891年~1953年)(ポーランド)
- 15 緑のポットと鉛の水差しのある静物 ポール・セザンヌ(1839年~1906年)(フランス)
- 16 四万山水図(部分) 文伯仁(1502~1575)(中国)
- 17 遠雷 アンドリュー・ワイエス(1917~)(アメリカ)
- 18 オルガ・ピカソの肖像 パブロ・ピカソ(1881~1973)(スペイン)
- 19 舞妓林泉 土田麦遷(1887~1936)(日本)
- 20 りんごとびんとミルクポットのある静物 ポール・セザンヌ(1839年~1906年)(フランス)

#### Bセット

- 21 雪の中の狩人 ピーテル・ブリューゲル(1525年~1569年)(現オランダ)
- 22 見立蟻通明神 鈴木春信(1725年~1770年)(日本)
- 23 町の神秘と憂愁 ジョルジョ・デ・キリコ(1888年~1978年)(イタリア)
- 24 ヴィンセントの寝室 ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ(1853年~1891年)(オランダ)
- 25 恋人たち パブロ・ピカソ(1881年~1973)(スペイン)
- 26 冬 加山又造(1927年~)(日本)
- 27 日傘を差す婦人 クロード・モネ(1840年~1926年)(フランス)
- 28 ラバン・アジュール モーリス・ユトリロ(1883年~1955年)(フランス)
- 29 ニースの窓辺 ラウル・デュフィ(1877年~1953年)(フランス)
- 30 ジャック・リブシッツ夫妻の肖像 アメデオ・モディリアーニ(1884年~1920年)(フランス)
- 31 画家のアトリエ ヤン・フェルメール(1632年~1675年)(オランダ)
- 32 ルーマニアのブラウス アンリ・マティス(1869年~1954年)(フランス)
- 33 大家族 ルネ・マグリット(1898~1967)(ベルギー)
- 34 日高河清姫図 村上華岳(1888年~1939年)(日本)
- 35 地獄草紙(部分) 作者不明(日本)国宝
- 36 立体的絵画の中のダリとガラ サルバドール・ダリ(1904年~1989年)(スペイン)
- 37 座る女 パブロ・ピカソ(1881年~1973年)(スペイン)
- 38 昼と夜 モーリッツ・コーネリス・エッシャー(1898年~1972年)
- 39 旅人 ヒエロニムス・ボッス(1450年~1516年)(現オランダ)
- 40 快樂の園(部分) ヒエロニムス・ボッス(1450年~1516年)(現オランダ)

### 4 備考

「似たものペア探し」用の図版カードを自作できない場合は、滋賀県立近代美術館が作成し教育機関向けに貸し出している「アートカード・ボックス」(<http://www.biwa.ne.jp/~sg-kinbi/artgamebox/artgamebox.html>)の中から選んだ図版カードを使うとよい。

